

株主通信

第138期第3四半期報告

平成17年4月1日～平成17年12月31日

The "K"LINE
The "K"LINE Way
The "K"LINE Way
The "K"LINE Way

3rd Quarter Business Report

K "K" LINE
川崎汽船株式会社®

証券コード：9107

CONTENTS

2 ごあいさつ

3 特集 情報システムの 災害復旧対策とセキュリティ

5 TOPICS

- カタール ラスガスII社向け新造LNG船
第3船竣工
- 中国・天津に総合物流会社を設立
- 黒海フィーダーサービス開始

7 営業の概況 ●業績概況 ●事業別概況

News Flash — 企業の社会的責任 —

- フィリピン アロヨ大統領から国際海事雇用者賞を受賞
- 当社最新の竣工船に見る環境・安全対策
 - GUANGZHOU HIGHWAY ● CAPE ACACIA
- “K”LINEブランド

(PRの頁)

10 川崎近海汽船株式会社

13 “K”Line (Japan)Ltd.

14 ケイライントラベル株式会社

我々は海へ回帰してゆく…

ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第138期第3四半期報告書（平成17年4月1日～12月31日）の
お届けに当たり、ご挨拶申し上げます。

昨年10月以降の第3四半期において、燃料油価格が一段と
高騰し、不定期船やコンテナ船の一部で運賃市況の軟化が見
られましたが、好調な油槽船市況と為替レートが想定より円安に
推移したこともあって、前回の予想どおりの業績をあげることが
できました。

第4四半期も環境は引き続きほぼ同じ基調にあり、通期におい
ても中間決算時に予想した利益水準を達成できる見通しです。

株主の皆様への配当は、先にお知らせしましたとおり、昨年よ
り1株当たり1円50銭増配の年18円（期末配当9円）を予定してい
ます。

中期経営計画“K”LINE Vision 2008及び配当政策につき
ましては、事業環境や市況動向を見極めつつ只今見直し作業を
進めており、来たる3月中旬に公表の予定です。

事業環境の変化に対応でき、安定収益と持続的成長を可能と
する事業基盤を確立して、皆様の期待にお応えできるよう、グルー
プ企業の役員・従業員一丸となって努力してまいりますので、株
主の皆様には、なにとぞ変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い
申し上げます。

平成18年2月

取締役社長

前川 弘幸



サービスという
形のない商品売るのだと…

特集

情報システムの 災害復旧対策とセキュリティ

当社では、万一の災害の際にも、主要な業務の遂行が可能なバックアップ体制を整え、また、個人情報や会社の重要な情報の漏洩対策にも万全の体制で備えています。

1 災害時のバックアップシステム

2005年(平成17年)7月、災害復旧対策の関西バックアップセンターの体制が整い、9月に実験的に東京本社ネットワークを切断し、バックアップセンターに無事業務が引き継がれることを確認しています。

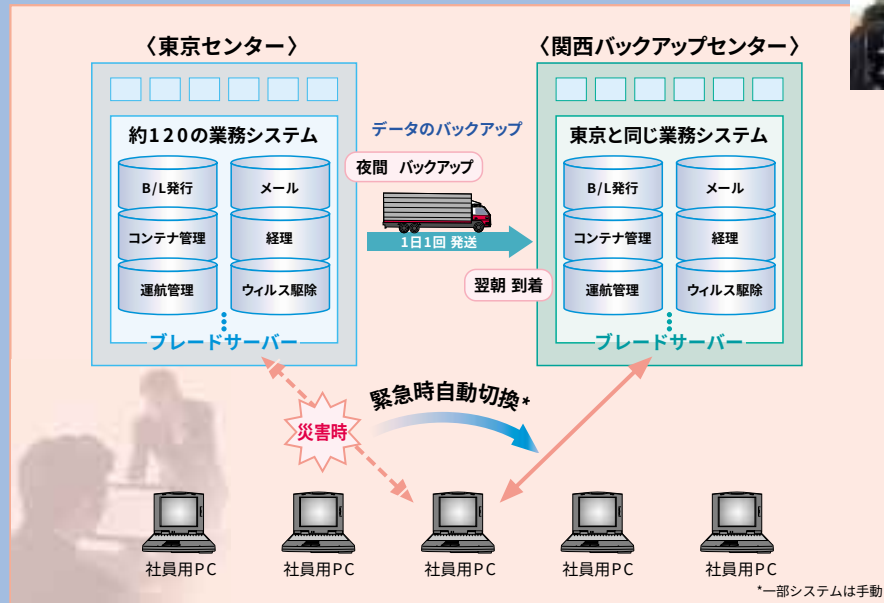
船荷証券発行を始めとして、当社では120以上の情報システムが稼動しており、東京センターにも重要な情報システムが設置されています。地震や風水害などの自然災害やテロなど人的災害により東京センターが機能停止となる最悪の状況を想定し、関西バックアップセンターを設置しました。このバックアップセンターには、東京センターと同じ構成の

システムが構築され、東京センターが使えなくなった場合にも、関西バックアップセンターにシステムを切り替えることで、情報システムサービスの提供が可能です。

緊急を要する情報システムは2時間以内に、主要なシステムは24時間以内に復旧できる体制を確立しています。

東京で毎日更新される業務データは、深夜にバックアップされ、関西バックアップセンターのシステムに反映します。

●災害時のシステム障害復旧体制



関西バックアップセンター内

●当社の災害対策準備状況

東京を中心とする災害(東京本社機能停止)に対し業務継続のため、以下の準備をしています。

■ 関西

- 業務要員収容 80名+α
- P C 50台
- 電話回線 20回線

■ 町田研修所

- 業務要員収容 50名+α
- P C 25台

2 ネットワーク回線のバックアップ

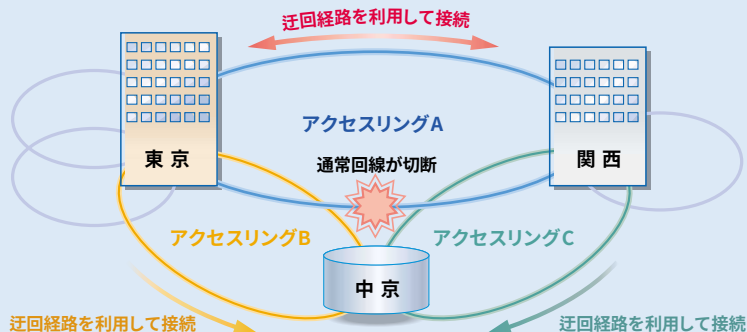
ネットワークについても、万一に備え迂回経路を準備するなど万全の体制としています。

国内伝達経路はリング状のネットワークを採用し、障害に

備え、迂回経路を複数持つことが可能です。これによって物理的なネットワーク切断にも耐える体制を整えています。

●ネットワークアクセスリング

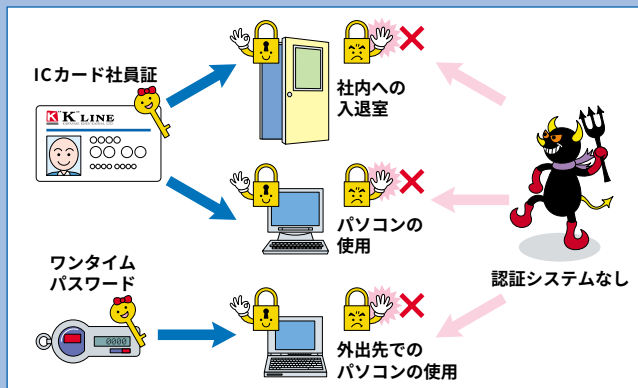
複数のアクセスリングで障害回避経路も多数



3 セキュリティ対策

社員のPCの不正使用や外部からの不正アクセスによる情報漏洩防止のために、ICカードを使っでの認証システムを導入しています。同時に、社内への入退室もこのICカード

●認証システム



でセキュリティを管理しています。

外出先から社内システムへのアクセスには、ワンタイムパスワードを採用し、PCの盗難や紛失といった場合にも不正利用が防止できます。

また、社内にあるファイルやデータへのアクセス記録を一定期間保存することで、有事の際には漏洩内容やルートの追跡を可能としています。

●アクセスログの保存

〈アクセス記録〉

- ☒ ファイル参照・変更・コピー・削除
- ☒ 外部媒体へのコピー
- ☒ 起動プログラム
- ☒ メール送受信

セキュリティ管理

不正利用の抑制

ルート追跡



❖ カタール ラスガスⅡ社向け新造LNG船 第3船竣工

2005年(平成17年)10月19日に韓国三星重工コジェ島工場にて145,000m³メンブレン型 LNG船アル ザヒーラが竣工しました。

アル ザヒーラは、カタールのラスガスⅡプロジェクトに投入される当社、(株)商船三井、日本郵船(株)、カタール SHIPPING 社の4社コンソーシアム共有船4隻の第3船であり、同年9月14日に命名され、竣工と同時にラスガスⅡ社との用船契約が開始されました。今後は25年にわたりラスガスⅡ社のLNG輸送のため、カタールのラスラファン港からアジア、欧米諸国向けに運航されます。

アル ザヒーラは当社英国法人が船舶管理を行うLNG船の第1船であり、11月9日にラスラファン港に初入港し、順調にカタール／韓国間でのLNG輸送に従事しています。当社グループは三国間のLNG船事業展開のさらなる拡充に向け、本船及びスノービットプロジェクト向け2隻、合計3隻のLNG船を英国で船舶管理することとしており、さらに10隻程度の船舶管理を計画しています。

当社グループは世界的に急増しているLNG需要を捉え、国内外を問わず積極的に営業活動を続けています。

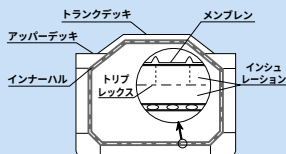
ラスガスⅡプロジェクト第3船概要

- ① 用 船 者 : Ras Laffan Liquefied Natural Gas Co. Ltd.Ⅱ (ラスガスⅡ社)
- ② 船 主 : Peninsula LNG Transport No.2 Ltd.
(当社、(株)商船三井、日本郵船(株)及びカタールSHIPPING社の4社にて設立)
- ③ 用 船 期 間 : 本船竣工から25年間
- ④ 造 船 所 : 韓国・三星重工業
- ⑤ 主たる配船水域 : カタール・ラスラファンからアジア、欧米諸国等
- ⑥ 船 舶 管 理 会 社 : 当社英国法人

タンクタイプについて

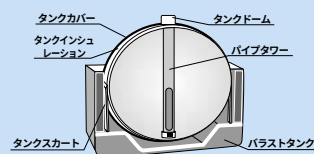
■メンブレンタンク

カーゴタンクがダブルハルのインナーハル(船殻)に沿った形状をしており、船体と一体となっている(モス船に比してスペースを有効に活用することが可能)。第一次防壁は約1.2ミリのステンレス板を鍛造にプレスしたもので、LNG液による熱収縮や、外熱による熱膨張等の運動を皺(コルゲート)で吸収する役割を果たす。第二次防壁はトリプレックスというアルミシートを使用。防壁が極めて薄く、短時間でクールダウンが可能、温度管理がしやすい、というメリットがある。



■モスタンク

船体と独立した球形の厚板アルミタンクを船体で支える構造。第一次防壁はアルミ合金であり、侵入熱を防ぐための防熱材がタンク周囲を覆っている。熱収縮に因るタンクの変形は、タンクを支持する円筒状のスカート部分で吸収する。球形であるために液状の貨物の揺れに伴う衝撃圧(スロッシング)がほとんどないというメリットがある。



❖ 中国・天津に総合物流会社を設立

2005年(平成17年)11月、当社と当社の中国現地法人“K”Line (China) Ltd. (本社：上海) は、天津市に保税物流倉庫の運営を核とする総合物流会社「川崎振華物流(天津)有限公司」を共同出資によって設立し営業を開始しました。地元の大手物流業者である振華物流集団との合併によるもので、近年中国が沿岸の主要貿易都市に開発を進めている保税物流園区に本拠を構え、延べ床面積13,000m²の二階建て倉庫を運営します。営業範囲は、倉庫業のみならず、トラック、フォワーディング、物流コンサルタント業などにも及び、同地域における総合物流事業の展開を目指します。

天津市は中国政府が産業経済先進開発地域として構想する渤海湾経済圏の要として今後も発展が期待されています。天津港は首都北京の玄関口として、コンテナ取扱量は480万TEUと日本トップの東京港の1.4倍に達し、今後も毎年20%前後の伸びが期待されています。周辺には、エレクトロニクスや通信機器、自動車関連の工場が多数あり、外資を含めた投資は今後さらに拡大して行く予想しています。

新会社は、当社がグループ各社とともに推進中の総合物流事業強化の一翼を担う中国拠点の一つとなるべく、今後の事業の運営と拡充に取り組んでいきます。



❖ 黒海フィーダーサービス開始

2005年(平成17年)12月から欧州航路の域内サービスとして、新たに864TEU型新造船2隻を投入し、当社の独自サービスとなる黒海フィーダーサービスを開始しました。アジアからの荷動きが、2005年は前年に比べ2割を超える増加を示すなど伸張著しい黒海諸港向けに、エジプトのポートサイド港を中心とした自営フィーダー網を整備し、当社欧州航路の母船と接続を行うことで、サービスの拡充を図ります。英国・スカンジナビア諸国・イベリア半島諸国と北欧州間のフィーダーサービスとして当社が現在独自運航を行っているIBESCOサービスと同様に黒海フィーダーサービスは“K”Line (Europe) Ltd.が、域内貨物の集荷や第三者へのサービス提供も含めて運営します。

寄港地は、ポートサイド(エジプト)ーイスタンブール(トルコ)ーオデッサ(ウクライナ)ーコンスタンツァ(ルーマニア)ーバルナ(ブルガリア)ーイスタンブールーポートサイドです。今後予定されている欧州航路母船の大型化に対応し、欧州域内でのフィーダーサービス網の一層の拡充を図ります。



P R E S E N T

6

コンテナトレーラー 抽選で100名様に プレゼント!!

官製はがきに、住所・氏名・年齢・職業・電話番号をご記入のうえ、下記までご応募下さい。

●〒105-8421 東京都港区西新橋一丁目2番9号
(日比谷セントラルビル)

川崎汽船株式会社 総務・法務グループ宛

●応募締切 2006年3月15日(水)当日消印有効

※抽選の結果は発送をもって代えさせていただきます。

なお、応募いただいた個人情報は、本来の目的以外には使用いたしません。

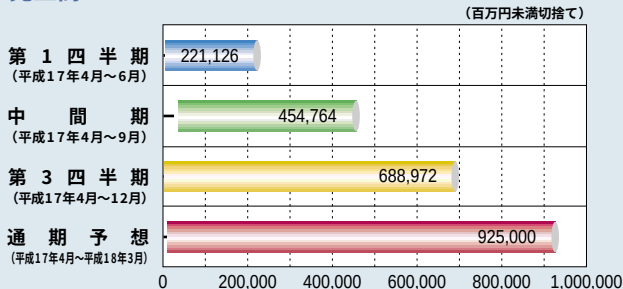


ミニチュアモデル
全長約10cm

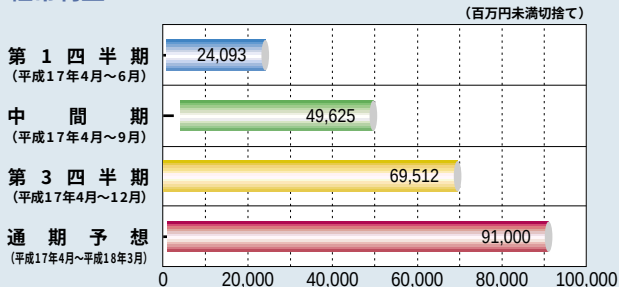
営業の概況

業績概況

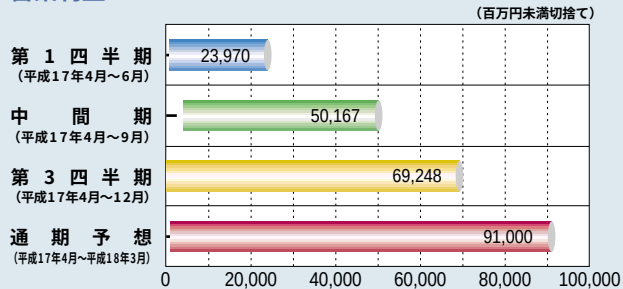
売上高



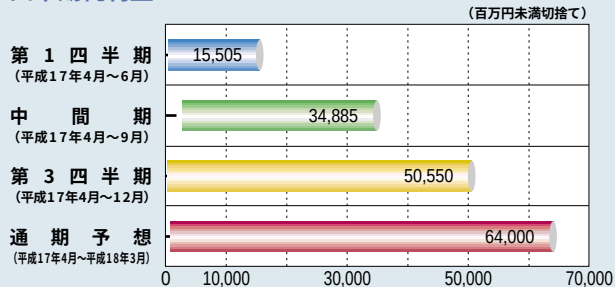
経常利益



営業利益

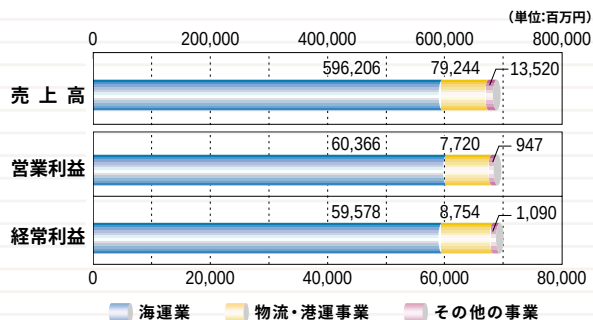


四半期純利益



当社グループの第3四半期(平成17年4月1日から平成17年12月31日まで)の連結売上高は、前年同期より670億1百万円増加し6,889億72百万円となりました。しかしながら、燃料油価格の高騰と不定期船市況の調整が圧迫要因となり、営業利益は対前年同期で166億42百万円減少の692億48百万円(中間見込み692億円)、経常利益は対前年同期で162億61百万円減少の695億12百万円(中間見込み681億円)となりました。四半期純利益は、前年同期に対し、42億52百万円増加の505億50百万円(中間見込み494億円)となりました。

第3四半期 事業の種類別セグメント情報



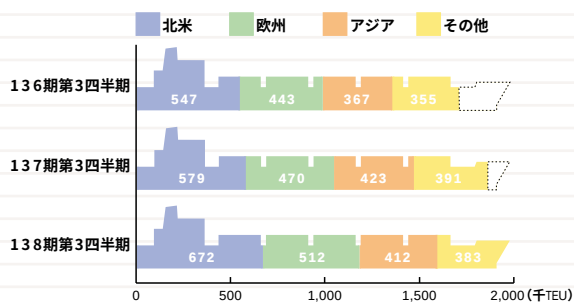
■ 事業別概況

海 運 業

コンテナ船部門

北米航路の荷動きは、主要品目である電機製品、衣料品などを含めた全体の荷動きが、前年同期比16%程度の伸びを示すなど好調に推移しました。北米航路における積高は、新航路増設により輸送力を強化した結果、前年同期比約19%の増加となりました。欧州航路も荷動きの伸びの顕著な地中海向けを含め、航路全体では前年同期比16%程度の増加となるなど、力強い荷動きを見せ、当社積高は前年同期比約12%の増加となりました。アジア航路は堅調な日本出し貨物に加えて中国出し貨物が増加しました。全体では好調な荷動きが継続しましたが、一部航路での運賃の軟化、燃料油価格、用船料の高騰等の影響もあり、コンテナ船部門では前年同期比増収減益となりました。

■ 航路別積高推移



海 運 業

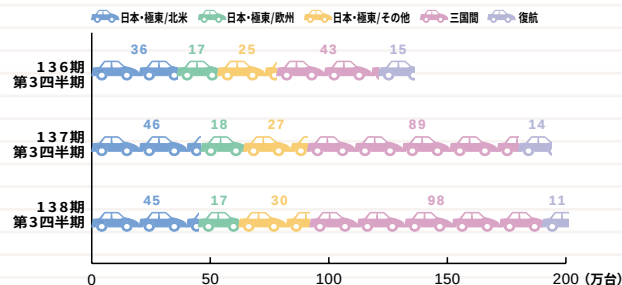
不定期専用船部門

撒積船は、市況水準が前年同期を大きく割り込み、対前年同期比では大幅な減益となりました。

自動車船は、引き続き好調な海外市場での日本車・韓国車販売を背景とした旺盛な海上輸送需要に着実に応えるべく、10月から12月の3ヶ月間に最新鋭の新造船3隻を新たに船隊に加え、輸送能力の増強を果たしました。

不定期専用船部門全体としては前年同期比増収減益となりました。

■ 自動車船積高推移



営業の概況

■ 事業別概況

海 運 業

エネルギー・資源輸送部門

液化天然ガス運搬船は、10月及び11月に新たに2隻のラスガスIIプロジェクト向け新造船が竣工しました。これらを含め合計29隻の当社LNG船隊は順調に稼働し、安定的な収益を確保することができました。電力会社向け石炭輸送は、積み出し港の船混みが緩和し、台風等による荒天の影響も少なかったため船舶の稼働率が向上し、輸送実績は1千万トンを超え、利益ともに前年同期を大幅に上回りました。

油槽船は運賃市況が一時的に軟化する場面もありましたが、米国、中国を中心とした石油需要が堅調に推移し、ほぼ前年同期並みの利益を確保することができました。

部門全体として、業績は前年同期をやや上回ることができました。

内航・フェリー部門

内航部門は専用船による安定した輸送量と業績を確保できましたが、フェリー部門は燃料油価格が高騰するなかで厳しい業績となりました。

この結果、海運業部門全体では、売上高は5,962億6百万円（前年同期比11.1%増）、営業利益は603億66百万円（前年同期比22.0%減）となりました。



物 流 ・ 港 運 事 業

荷況が海上・航空共に比較的堅調に推移したこと、及びその結果港湾関連事業会社の取扱貨物が増加したことが相俟って、セグメント全体では、売上高は792億44百万円（前年同期比9.8%増）、営業利益は77億20百万円（前年同期比1.2%減）となりました。



そ の 他 の 事 業

上記以外の事業においては、売上高は全体として135億20百万円（前年同期比1.6%増）、営業利益は9億47百万円（前年同期比87.6%増）となりました。



"K"LINE KINKAI

生乳製品をデイリー配送、

ほくれん丸・第二ほくれん丸 釧路⇄日立



ほくれん丸

安いで快適な旅を提供します。

シルバークイーン 苫小牧⇄八戸



シルバークイーン



"K"LINE KINKAI

川崎近海汽船株式會社

KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.

東京都千代田区霞が関1丁目4番2号

<http://www.kawakin.co.jp>

News Flash

企業の社会的責任

フィリピン アロヨ大統領から 国際海事雇用者賞を受賞

2005年(平成17年)11月、当社及びグループ会社である太洋日本汽船㈱は、「長年にわたり、フィリピン人船員の雇用及びそれにとりもなう船員、家族の福祉向上に多大な貢献をした」ことにより、フィリピン共和国大統領ならびに労働雇用大臣による第2回「国際海事雇用者表彰」を受賞しました。2002年(平成14年)の第1回表彰に引き続き受賞です。

フィリピン共和国マラカニアン宮殿で執り行われた表彰式において、アロヨ大統領から当社及び太洋日本汽船㈱にトロフィーが授与されました。

当社は、1989年(平成元年)4月にフィリピンに船員雇用会社を設立し、以来同社のフィリピン人船員の雇用を通じて、フィリピン共和国の発展に貢献しています。

1993年(平成5年)1月にはマニラ市に船員研修所を設立し、年間延べ4,000人にのぼるフィリピン船員の教育訓練を実施しています。それによって、当社運航船の高い安全性を維持・向上させています。



中期経営計画“K”LINE Vision 2008において、当社グループは、フィリピン人船員をグループ管理船隊の重要なマンニングソースの1つと位置付け、船員の教育訓練

体制をさらに強化・拡充し、より一層の安全運航体制の確立に向け、取り組んでいます。

当社最新の竣工船に見る 環境・安全対策

GUANGZHOU HIGHWAY

2005年(平成17年)8月及び11月に就航した“SHANGHAI HIGHWAY”及び“TIANJIN HIGHWAY”に引き続き、本年1月、3隻シリーズの最終船に当たる5,000台積み自動車運搬船“GUANGZHOU HIGHWAY”が、南通中遠川崎船舶工程有限公司(中国江蘇省)にて竣工しました。

本船では前2隻に引き続き環境、安全面に配慮した新しい船体構造及び機器を採用していますが、それらに加えてMARPOL(海洋汚染防止条約)に対応した低硫黄燃料油タンクも新設しています。

1. 燃料油タンクの3重底内配置

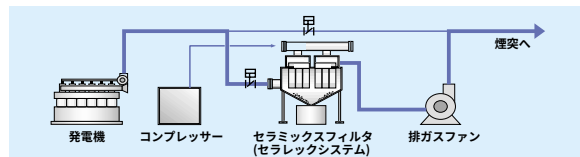
3重底内に燃料油タンクを配置することにより、万が一の船体損傷時にも燃料油タンクをダメージから守り、従来船型と比べて漏油事故などの海洋汚染リスクを低減させることを目的としています。

2. 電子制御機関

電子制御機関は燃料噴射タイミングや排気弁の開閉タイミングを電気的信号で制御することにより、NOx(窒素酸化物)削減、低負荷での煤塵/CO₂の削減、低速域での操作性の向上等の効果が得られます。

3. 発電機の集塵装置

排気ガス中の粒子状物質を取り除く集塵装置を搭載し、船舶からの排気ガスをクリーンにします。運航中の“SHANGHAI HIGHWAY”、“TIANJIN HIGHWAY”の両船において、その集塵効果は実証されています。



4. 低硫黄燃料油タンクの設置

船舶からの大気汚染防止のための規則に柔軟に対応することを目的とし、本船には通常の燃料油タンクに加え、低硫黄燃料油専用タンクを併設しています。

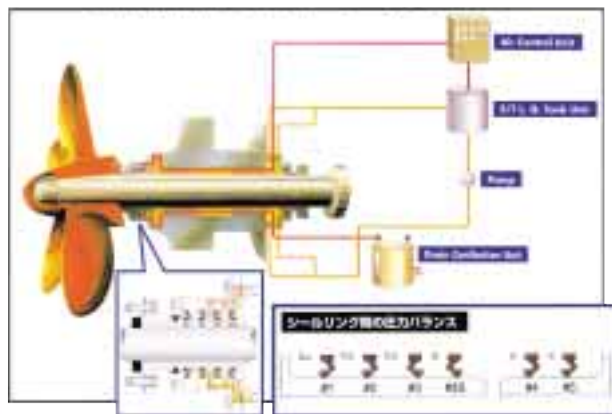
CAPE ACACIA

2005年(平成17年)7月、今治造船株式会社・西条工場にて20万トン型撒積船(ケーブサイズ型)“CAPE ACACIA”が竣工しました。当社は製鉄会社向け原料輸送用撒積船部門の業容拡大、強化に積極的に取り組んでおり、本船の建造は競争力のある船隊整備計画の一環です。

本船は、揚荷港での荷役効率が高く、安全運航や環境保護にも有効な船体構造及び設備を採用しています。

1. 幅広浅喫水船型を採用することにより輸送効率が良く省エネ効果が高い。
2. 揚荷港での荷役効率を高めるダブルハル船型。
 - ダブルハル化でフラットになる船倉内面は効率的な荷役作業に寄与します。
3. 環境に優しい船舶として、
 - オゾン層破壊係数ゼロの冷媒R404aを採用。
 - 冷却水系統にセントラルクーリング方式を採用。
 - 船尾管シール装置にエアシール方式を採用。

海水を汚染から守るエアシールシステム



エアシールは、従来の空気制御ユニットの構造をよりシンプルにしたシール・システムです。船内空気源より供給された空気は、#2/3チャンパーを通して海水側に吹き出します。これによって、海水のスタンチューブへの侵入と潤滑油の船外への漏洩を防止します。

“K”LINEブランド

“K”LINE Vision 2008の3つのテーマのうちの1つとして「夢のあるグループ企業文化の創造と“K”LINEブランド価値の向上」を掲げています。

“K”LINEブランドとは、顧客の求めに応じて“K”LINEならではの商品としてサービスを提供することであると考えています。顧客のそれぞれのニーズに合わせて技術を駆使し経験を生かし、高品質のサービスを作り上げることで顧客の満足と信頼が得られることになります。

世界初の自動車専用船の建造、米国で15年以上運航しているリーファー・ブリッジ(冷凍コンテナ貨物の米国内貨車輸送)、運航効率を改善した幅広浅喫水石炭船の開発などは、“K”LINEブランドの具体例です。これら、“K”LINEブランドのサービスを支える中心は、安全運航と高品質の維持であるとの認識にたち、安全の確保に細心の注意を払い、品質の向上に努めています。

また物流部門では、これまでのグループをあげての取り組みが、KLTL(“K”LINE TOTAL LOGISTICS)ブランドとして、リテイラー、自動車メーカー、電子機器メーカーなどに浸透しつつあります。

これらの地道な取り組みひとつひとつが“K”LINEブランドの確立と向上に寄与しています。



“K” LINE は、創業以来一世紀近くにわたって、世界の海を舞台に
海運ビジネスに取り組み、世界有数の海運会社としてその地位を
築いてまいりました。今後も顧客満足度 No.1 サービスをモットーに、
多様化する輸送ニーズに迅速かつきめ細かなサービスでお応えしていきます。

海を舞台に。



K “K” LINE
川崎汽船株式会社®
<http://www.klj.kline.com>

世界にお届けします“K” Line の赤いコンテナ



定期航路グローバルネットワーク：北米航路／欧州航路／アジア航路
中国航路／インド・パキスタン・PG航路／豪州航路／南米航路／南アフリカ航路／大西洋航路

“K” Line (Japan) Ltd. 本社 Phone (03)3595-5213／名古屋支店 Phone (052)589-4512／関西支店 Phone (078)858-6501

We promise your comfortable world trip. ✈

ケイライントラベル株式会社

- 全世界への出張をトータルにバックアップ
- 日本でシェアトップクラスのキルトツアー
- ホームステイや世界のイベントへの渡航手配

Business Trip Consulting

◆ビジネストラベル・出張関連
業務をトータルにサポート

Group Tour etc.

- ◆キルトツアー
- ◆中国ビジネスツアー
- ◆広告業界関連ツアー
- ◆ホームステイ

System Solution

◆ビジネストラベル/
システムソリューション



 **"K" LINE TRAVEL, LTD.**

本社・東京旅客部 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル1F

TEL:03-3506-3466

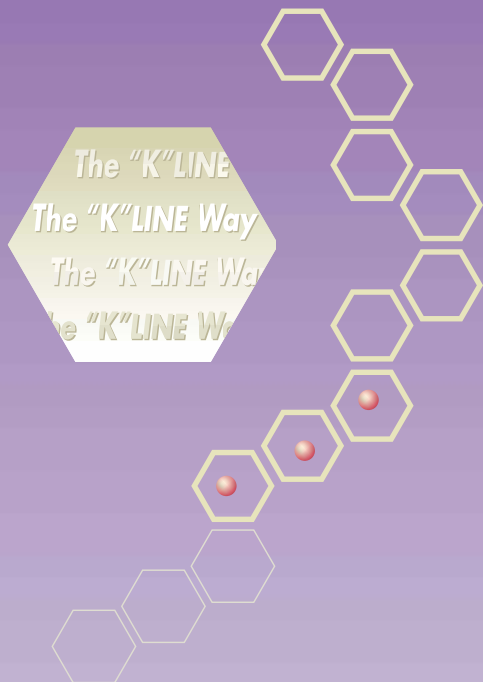
神戸営業所 〒650-0024 神戸市中央区海岸通八番 神港ビル1F

TEL:078-391-1701

大阪営業所 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-2-1 大同生命本社ビルB1F

TEL:06-6443-8777

<http://www.klineair.co.jp/travel> <http://www.quilters-shop.com>



〒105-8421 東京都港区西新橋一丁目2番9号
(日比谷セントラルビル)

TEL : 03-3595-5061

URL : <http://www.kline.co.jp>

IRメール配信サービスのご案内

当社では、情報提供をさらに充実させるため「IRメール配信サービス」を開始しました。プレスリリース、決算発表日のお知らせ、決算概要などを自動的に電子メールでお届けします。ぜひご利用ください。

サービスのご登録は <https://www.kline.co.jp/sec/mlist/index.asp>

(注) この株主通信に記載されている将来の業績等に関する見通しについては、リスクや不確定な要因を含んでおり、実際の業績はさまざまな要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おください。



本誌は100%再生紙、大豆油インキを使用しています。
当社は未来の子供たちのために、資源の再利用と
環境保全に取り組んでいます。